念禱「あなたが私を 祝福するまで、私は あなたを離しませ ん」(IV)

「祝福してください」。太祖ヤコブはそれ以下では満足しません。彼は主をしっかりと捕らえ、離しません。しかし、その祝福とは何でしょうか?

2024/11/06

シリーズ: 戦い、親しさ、使 命 (5)

念禱「あなたが私を祝福するま で、私はあなたを離しません」 (IV)

これまでの記事を読む

あなたが私を祝福するまで、私 はあなたを離しません

「祝福してください」。太祖ヤコブはそれ以下では満足しません。彼は主をしっかりと捕らえ、離しません。しかし、その祝福とは何でしょうか?ヤコブは神を見る喜びを持ち、そしてその喜びは、神を見ていることに気づいたとき、増します。祝福とは、神の

御顔を観想することであり、それは 私たちを神の平和、喜び、慈しみで 満たします。それは私たちの意志に よって実現できるものではなく、聖 霊の賜物に心を開くことによって得 られます。「わたしたちの全生涯 は、この長い戦いと祈りの夜のよう なものです。わたしたちはこの夜 を、神の祝福を望み、願いながら過 ごさなければなりません。わたした ちは自分の力に頼って神の祝福を奪 い取ることも勝ち取ることもできま せん。むしろそれを、へりくだっ て、無償のたまものとして神から受 け取らなければなりません。このた まものが、ついには、主のみ顔を見 いだすことを可能にしてくれるので すしい。

ですから、私たちは忍耐強く待たなければなりません。ヤコブは夜明けまで一晩中待たなければなりませんでした。彼は逃げず、あきらめませんでした。私たちが何度も何度も願

い求めるなら、祝福は私たちに与え られます。私たちは自分にできるこ と、沈黙・落ち着き・心の自由を追 求します。一方、観想の賜物、知 識・聡明・上智を与えてくれるのは 神です。私たちはそれらを自分で得 ることはできません。それらは、神 が望むときに受けることができる賜 物です。私たちはそれらを謙遜に求 め、待たなければなりません。主は それらを少しずつ、もしくは場合に よっては一度に与えてくれます。そ して、この祝福を一口ずつ、または 溢れんばかりに受け取ったなら、私 たちは遠くを見つめながら旅路を続 けます。その祝福は一時的なもので はなく永続的なものだからです。ヤ コブは出発しました…どこへ向かっ たのでしょうか?それはあまり重要 ではありません。大切なのは、彼の 魂にはすでに主の御顔が刻まれてい るということです。「太祖ヤコブが 戦いの初めに願った祝福が、今や彼 に与えられます。それは策略によっ

てつかみ取った祝福ではなく、神が 無償で与えた祝福です。ヤコブはこ の祝福を受けることができます。な ぜなら、今や彼は独りきりで、保護 も策謀も策略もなしに、無防備で自 らを与え、降伏することを受け入 れ、自分自身について真実を告白す るからです」[2]。

「わたしは顔と顔とを合わせて神を 見たのに、なお生きている」とヤコ ブは言います。この奇妙な戦いを通 して、彼は目の前にいる方を知るよ うになっていきました。私たちも生 涯を通じて、祈りによって神を知る ようになり、神を理解していきま す。あるいは、たとえ理解できなく ても少なくとも神の〈やり方〉を受 け入れるようになっていきます。私 たちは彼の名を知りたいと思いま す:「あなたは誰ですか?」。私た ちは彼を見たいと思います。そして 神は自身を現しますが、同時に隠れ ます。それは私たちが神を探し続

け、神によって生きるために、神の 探求によって生きるためです。

この神秘的な物語の結末は、私たち の信仰がほとんど常にそうであるよ うに、逆説的です。神はヤコブを祝 福し、その勝利を称えますが、結局 のところ彼の腿の関節を外しまし た。太祖ヤコブは良く戦い、謎の相 手に屈することなく立ち向かいまし た。しかし、これからは足を引き ずって歩くことになります。それは この戦いを思い起こさせる一種の勲 章となるでしょう。「そして、この ヤコブこそが、神から祝福を受け、 その祝福とともに足を引きずりなが ら約束の地に入るのです。傷つきや すく、傷ついていますが、彼の心は 新しくなりました | 図。私たちもま た戦いから、傷つき、刷新されて出 てきます。私たちの地上的な確かさ は外され、今は神の印によって導か れるのです。神は私たちを祝福し、 これからも祝福し続けますが、私た

ちの真の安全は神の中にあるということを深く自覚するようにさせます。そして、私たちは祈れば祈るほど、神を必要としていることに気でといることに気であることに気であることに気でいますます。そして、ますます神の祝福を求めるのです:「あなたが私を祝福するまで、私はあなたを離しません」。

[1] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2011年5月25日。

[2] 同。

[3] フランシスコ、一般謁見演説、 2020年6月10日。

Ricard Sada

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/combat-closeness-mission5-4/(2025/12/16)